

# 久保利英明の グローバル彷徨



第3回

## クジラと共生する国

— もう一つの「ドミニカ」

イラスト・題字：長峯亜里

### カリブ6カ国 17日間の旅

世界197カ国踏破をめざしたものの、実現はなかなか大変だ。一挙に国数を増やすには、国が密集している狭い地域を捜すしかない。地球儀とにらめっこして、カリブ海に浮かぶ小アンティル諸島を見つけた。「セントクリストファー・ネイビス」「アンティグア・バーブーダ」「ドミニカ国」「セントルシア」「セントビンセントおよびグレナディーン諸島」「グレナダ」「バルバドス」「トリニダード・トバゴ」の8カ国が北緯18度から北緯12度にかけて一列に並ぶ。すでにグレナダとトリニダード・トバゴは訪れていたから、それ以外の6カ国を一気に回ることにした。6つの島を都合良く全てめぐる豪華クルーズは見当たらない。結局ニューヨークを起点に、17日ばかりでローカル航空で飛んでいくこととした。2008年8月のことである。

今回はその島々の中でも印象の深い、「ドミニカ国」を紹介しよう。

この国は「ドミニカ共和国」とは別の国である。ドミニカ共和国は大アンティル諸島のイスパニョーラ島にある国で、西部の国「ハイチ」と島を2分している。人口1000万人を数える大国である。一方ドミニカ国は旧英領で、人口わずか6万7000人。世界186位の小国である。

アンティグアを飛び立った飛行機は、途中フランス領グアドループ島を経由して、ドミニカ南部の首都ロゾー郊外のケインフィールド空港に到着する。島の南部山地には世界遺産のモルヌ・トロワ・ピトン国立公園がある。火山性の噴気孔と温泉湖が散在し、豊かな自然とエコツアーが売りである。体長18センチにもなる世界最大のカブトムシ「ヘラクレスオオカブトムシ」の生息地と言われている。

私は空港からタクシーでクジラ見物のポートが出発する船着き場近くの「フォートヤング・ホテル」まで移動した。その間の電柱にたくさんの張り紙が貼られて風に吹かれている。いかにも即席のお手軽なビラで、揺れる車内からは「KUBOLI」と読めた。「そうか、極東の島国ニッポンからはるばるやってきた私に対する歓迎のビラだ」と感動した。タクシーを止めて運転手に確認すると、なんと「KUBULIを飲もう」という地場産のビール「クブリ(Kubuli)」の宣伝ビラだった。いくら親日国といえども、私の訪問を知る訳がない。少しがっかりはしたが、滞在中「クボリビール」と呼んで、マイビールを飲み続けた。

### 鯨の量、大きな影響与える生活

この国には産業らしい産業もない。あえて言えば漁業と観光業だろう。漁業の対象はイカとクジラである。一方の観光業はホエールウォッチング